

事務連絡  
令和5年2月7日

各正会員  
事務局責任者様

公益社団法人全国産業資源循環連合会  
専務理事 室石 泰弘  
(担当:事業部 本多)

## 産業廃棄物処理業の景況動向調査報告書【2022年10-12月期】の送付について

当連合会の事業の運営につきましては、日頃から格別のご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、本調査の実施にあたり全産連発第157号(令和5年1月10日付け)にて貴協会会員企業にご協力をお願いしたところですが、今般、景況動向調査報告書【2022年10-12月期】がまとまりましたので、送付いたします。

報告書の概要版につきましては、連合会ホームページに掲載しておりますので、以下のURLをご参照ください。

### 【報告書概要版の掲載ページ URL】

<https://www.zensanpairen.or.jp/activities/report/>

次期(2023年1-3月期)につきましては、令和5年4月中旬頃に調査依頼を予定しておりますので、ご承知おきください。

## 産業廃棄物処理業景況動向調査結果について 〔2022年10-12月期〕

公益社団法人全国産業資源循環連合会

### 〔調査結果の概要〕

今期の調査は364社から回答があった。景況判断DIは▲16(前期調査から1ポイント悪化)となった。来期の見通しは▲20となり、4ポイント悪化する見込みとなっている。

経営上の問題点については、「従業員の不足」、「修理、修繕費等の増加」の回答割合が高かった。

「その他」の記述回答では、4期続けて燃料費の高騰を懸念する声が多く寄せられた。

以下、その他業況感DIの内訳

2022年7-9月期に対して、

- ・売上高DIは8で、15ポイント改善
- ・処理量DIは0で、12ポイント改善
- ・営業利益DIは▲6で、2ポイント改善
- ・資金繰りDIは▲1で、前期と変わらず
- ・借入難易度DIは10で、1ポイント改善
- ・設備投資DIは1で、1ポイント悪化
- ・従業員数DIは▲5で、1ポイント改善
- ・契約単価DIは、収集運搬が7で、4ポイント改善  
処分が5で、2ポイント悪化

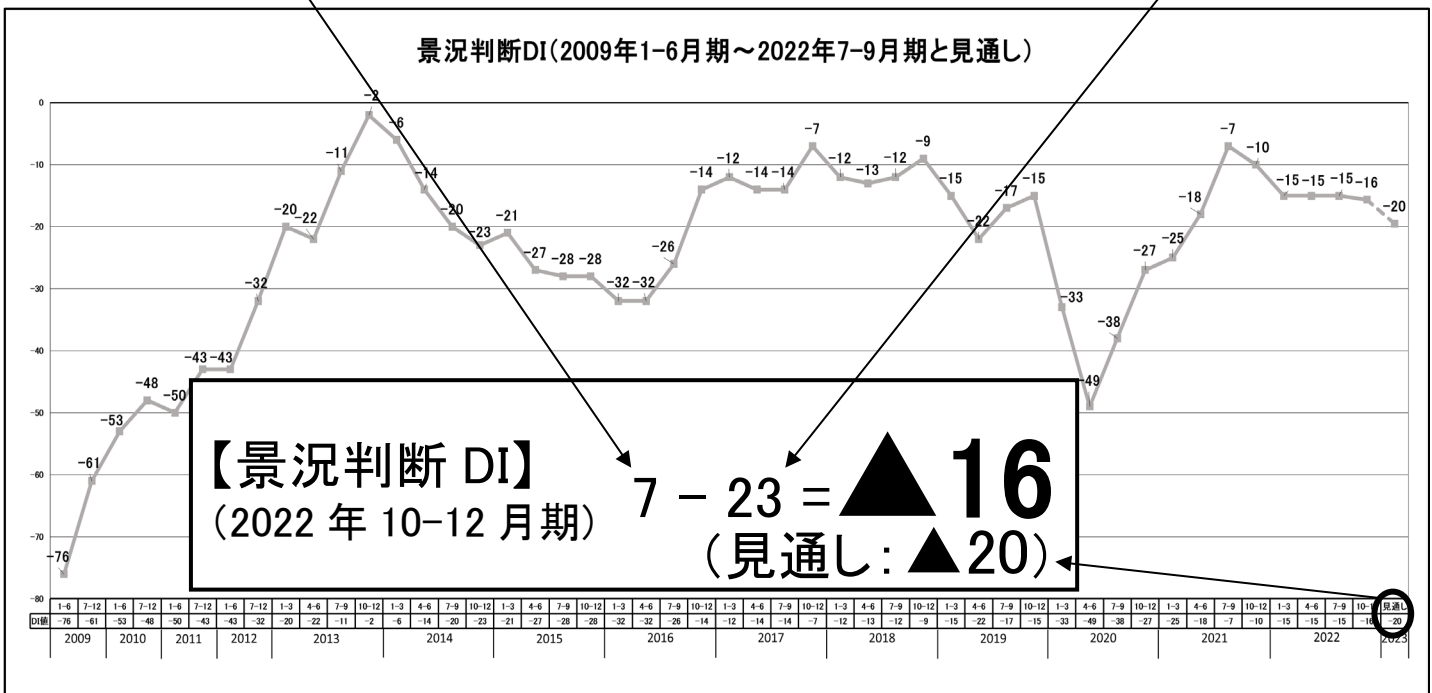
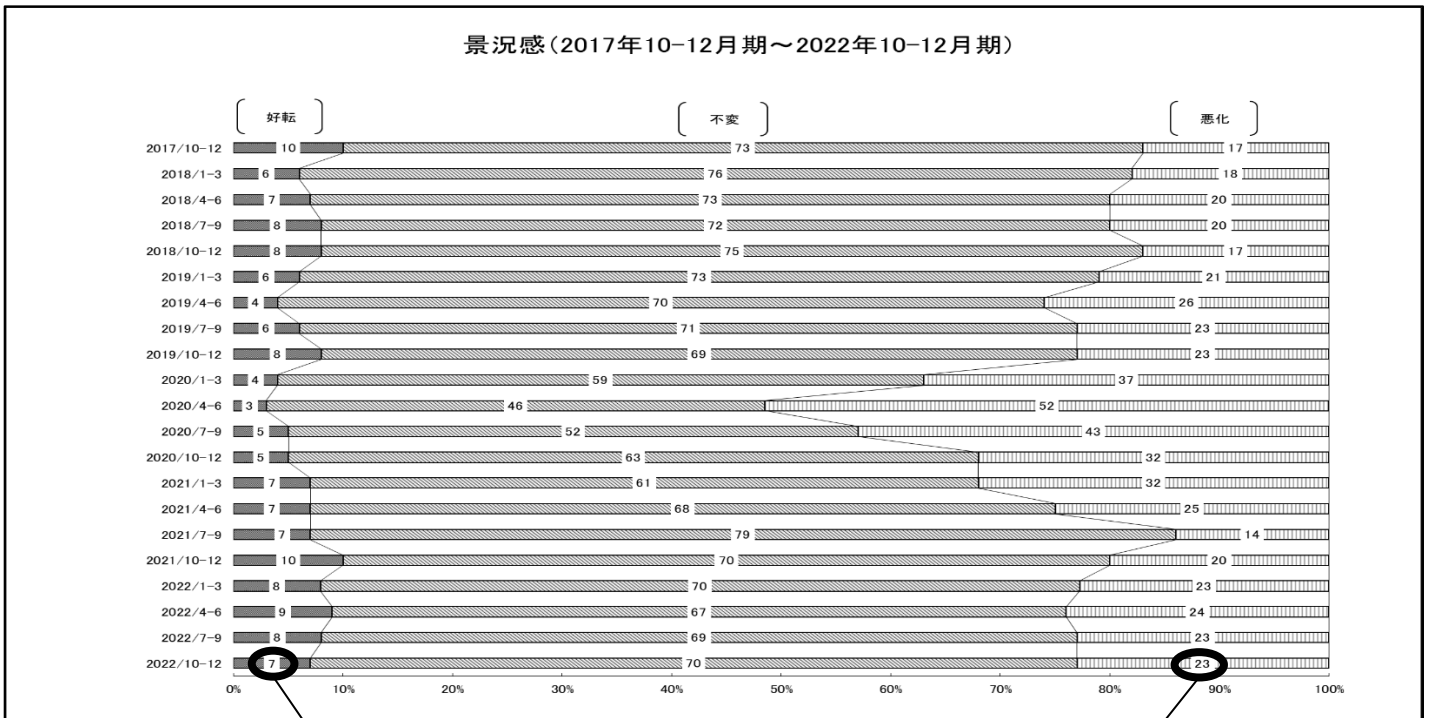
- 売上高の動向については、前年同期比で0.5%減となった。
- 処理量の動向については、前年同期比で2.9%減となった。
- 経常利益率については、前年同期比で1.9%増となった。

※DIとはディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で「好転」・「増加」したなどとする企業割合から「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

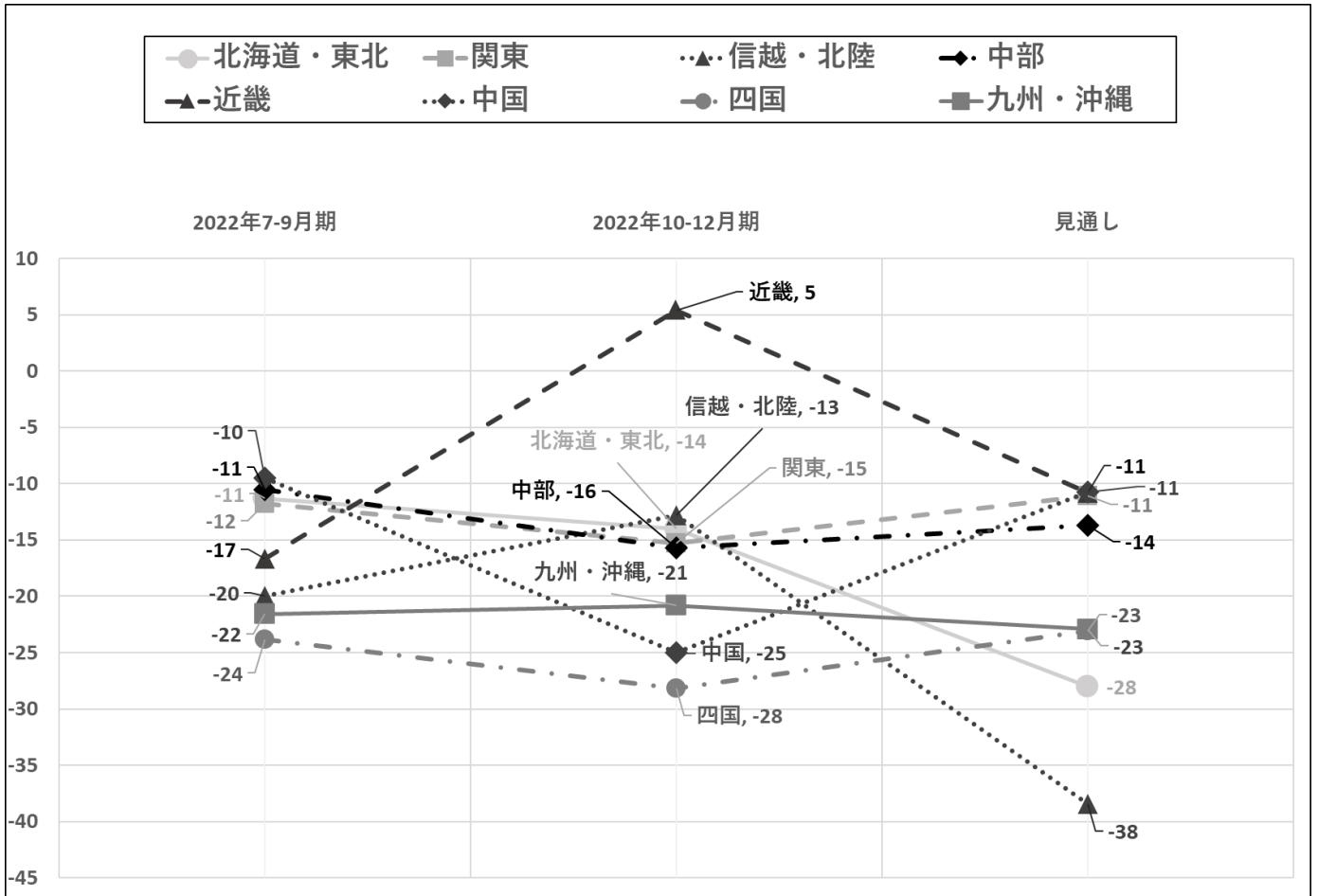
# 1. 景況感 DI(「好転」・「増加」-「悪化」・「減少」の企業割合)

## (1) 景況判断 DI

- 景況判断 DI は▲16 となり、1 ポイント悪化した。  
見通しは▲20 となり、4 ポイント悪化する見込みとなっている。
- 地域別の景況判断 DI をみると、「信越・北陸」、「近畿」、「九州・沖縄」が改善した。  
(3 ページ参照)
- 地域別の景況判断 DI 見通しをみると、「関東」、「中部」、「中国」、「四国」が改善する見込みとなっている。(3 ページ参照)



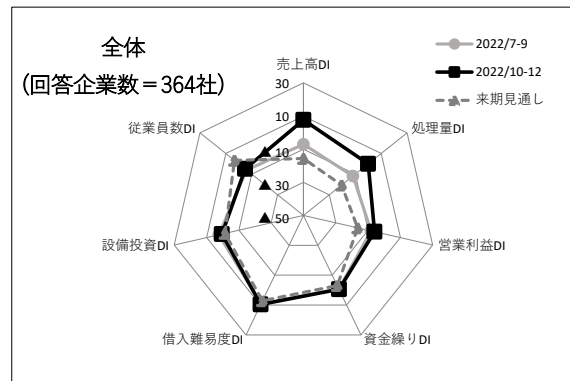
# 地域別景況判断 DI



	北海道・東北	関東	信越・北陸	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄
2022年7-9月期	-11	-12	-20	-11	-17	-10	-24	-22
2022年10-12月期	-14	-15	-13	-16	5	-25	-28	-21
見通し	-28	-11	-38	-14	-11	-11	-23	-23

## (2) 売上高、処理量、営業利益、資金繰り、借入難易度、設備投資、従業員数 DI

- 前期と比べて、設備投資 DI のみ悪化した。
- 見通しは、従業員数 DI のみ改善する見込みとなっている。

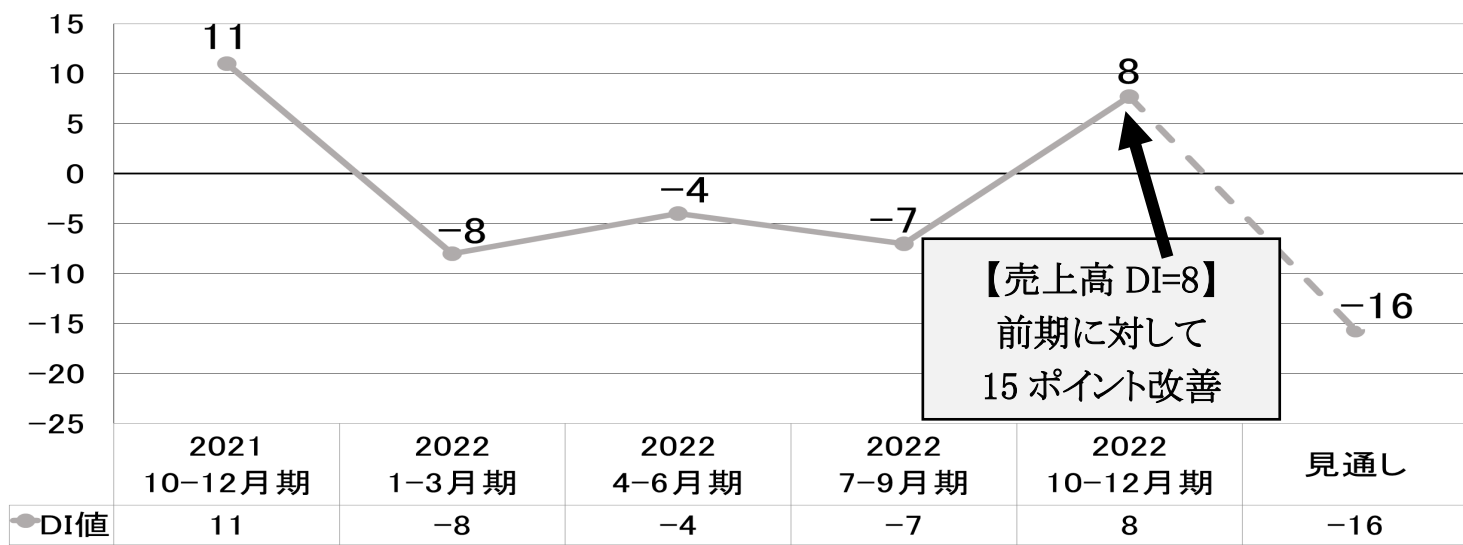


以下詳細(5~7ページ参照)

- ・売上高 DI は 8 となり、前期と比べて 15 ポイント改善した。  
見通しは▲16 となり、24 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・処理量 DI は 0 となり、前期と比べて 12 ポイント改善した。  
見通しは▲21 となり、21 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・営業利益 DI は▲6 となり、前期と比べて 2 ポイント改善した。  
見通しは▲16 となり、10 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・資金繰り DI は▲1 となり、前期と変わらず。  
見通しは▲3 となり、2 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・借入難易度 DI は 10 となり、前期と比べて 1 ポイント改善した。  
見通しは 7 となり、3 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・設備投資 DI は 1 となり、前期と比べて 1 ポイント悪化した。  
見通しは▲1 となり、2 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・従業員数 DI は▲5 となり、前期と比べて 1 ポイント改善した。  
見通しは 3 となり、8 ポイント改善する見込みとなっている。

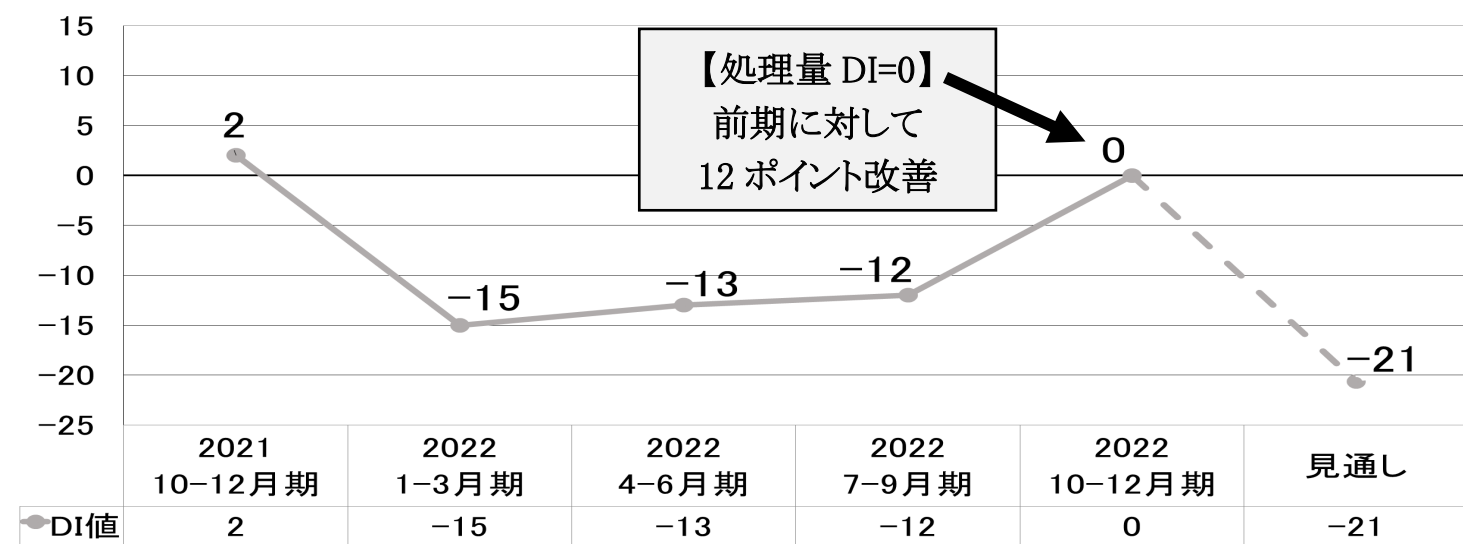
### 売上高DI

(2021年10-12月期～2022年10-12月期と見通し)



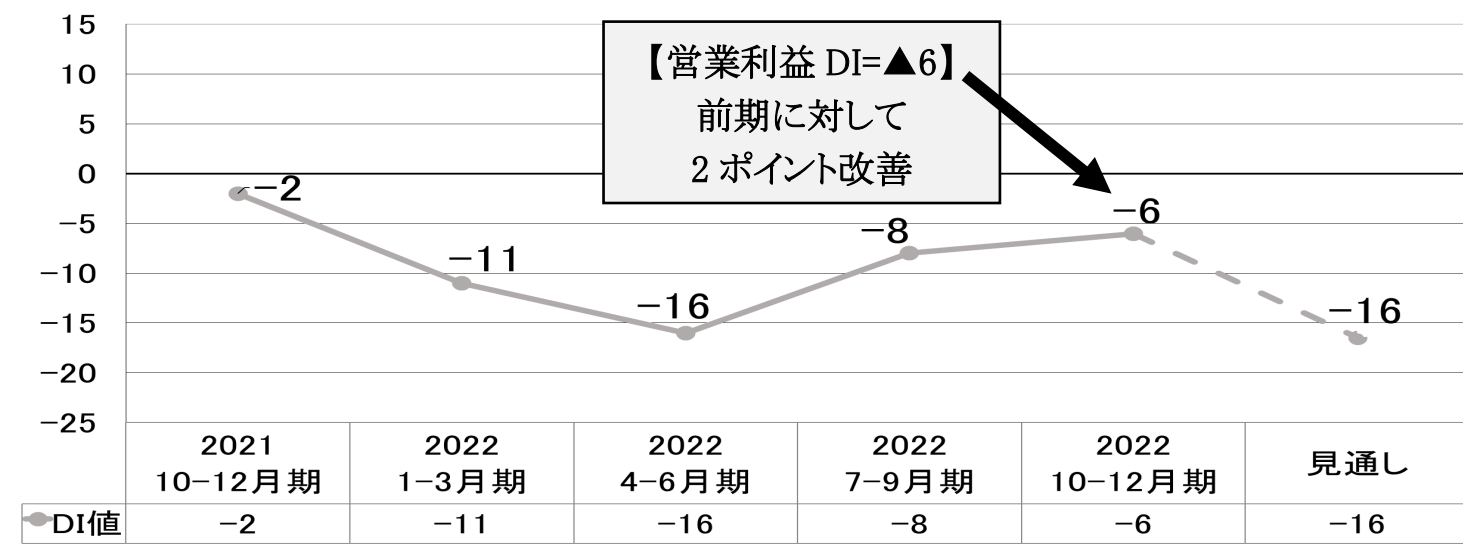
### 処理量DI

(2021年10-12月期～2022年10-12月期と見通し)



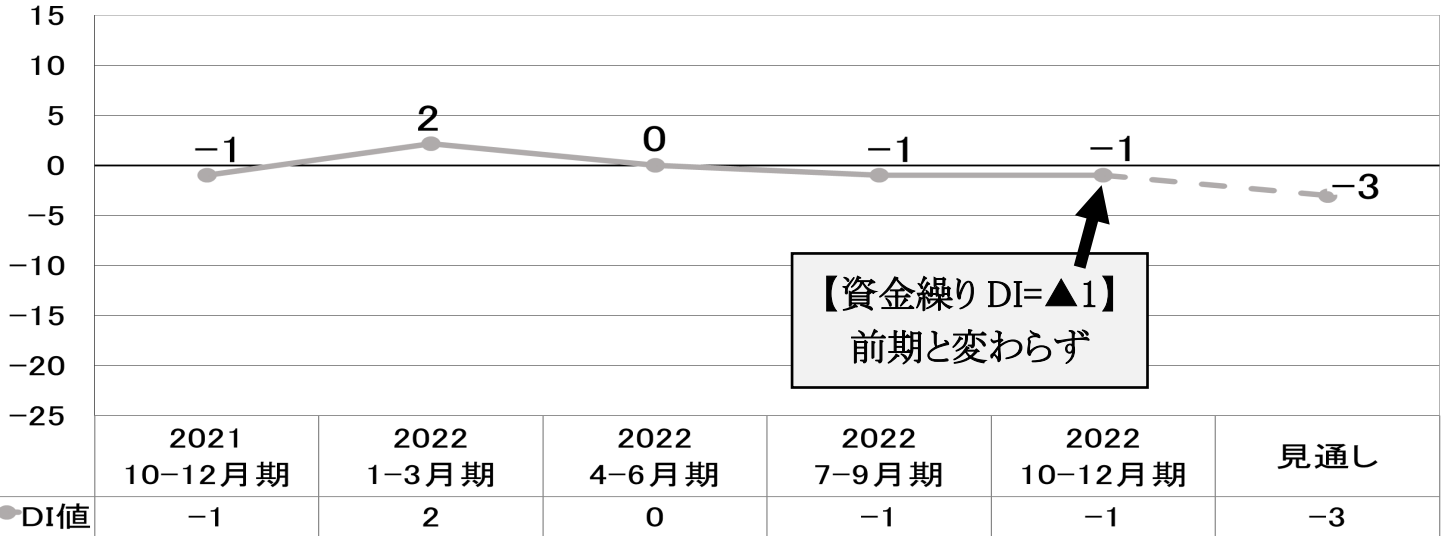
### 営業利益DI

(2021年10-12月期～2022年10-12月期と見通し)



### 資金繰りDI

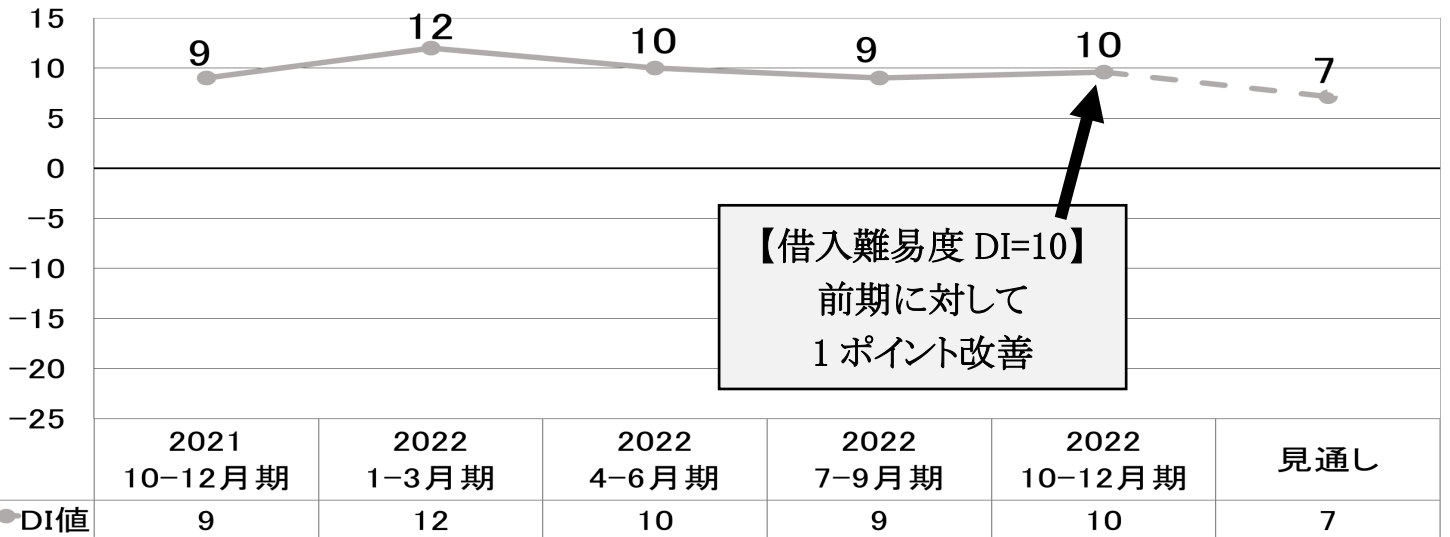
(2021年10-12月期～2022年10-12月期と見通し)



【資金繰りDI=▲1】  
前期と変わらず

### 借入難易度DI

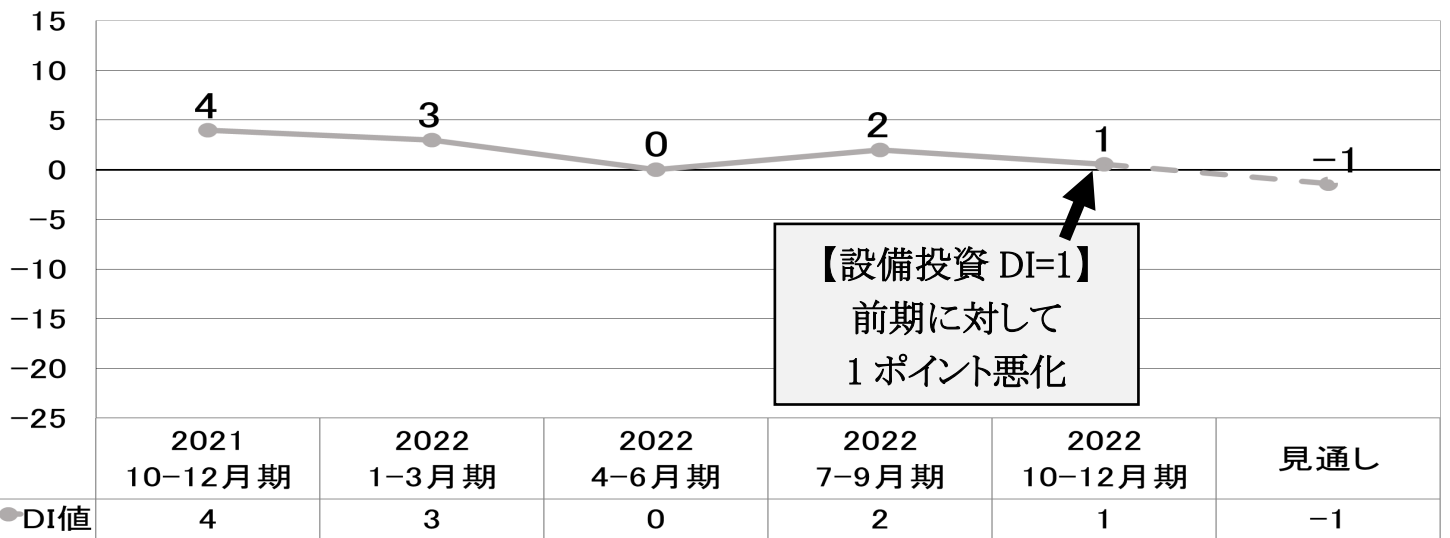
(2021年10-12月期～2022年10-12月期と見通し)



【借入難易度DI=10】  
前期に対して  
1ポイント改善

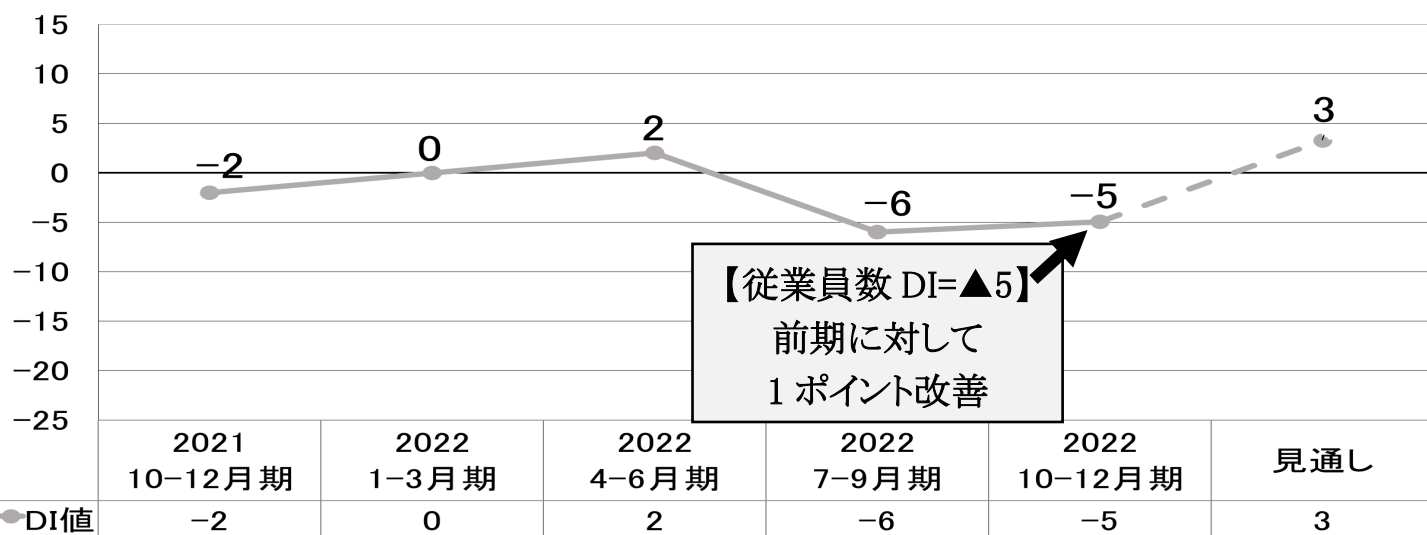
### 設備投資DI

(2021年10-12月期～2022年10-12月期と見通し)



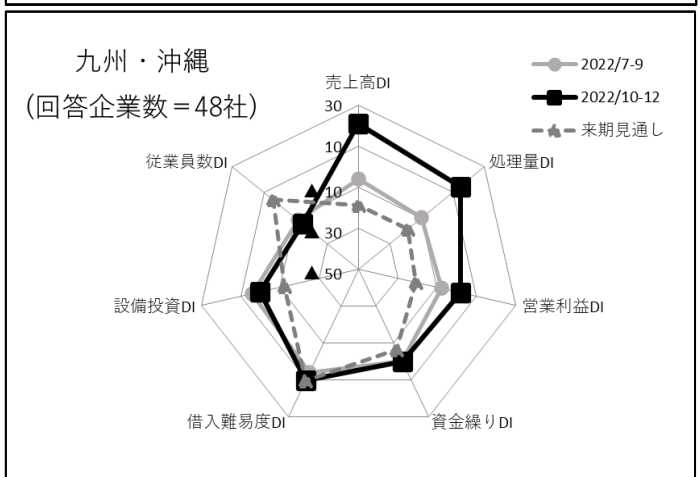
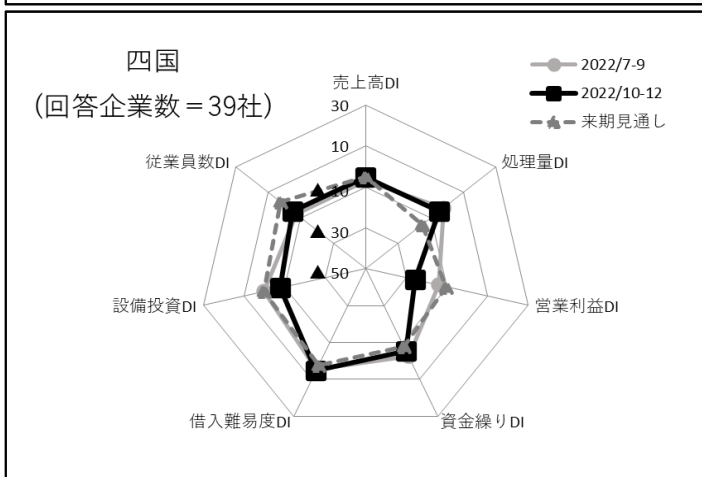
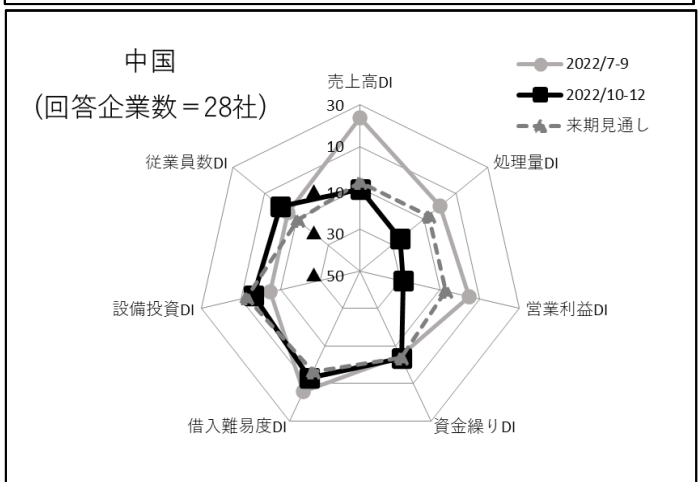
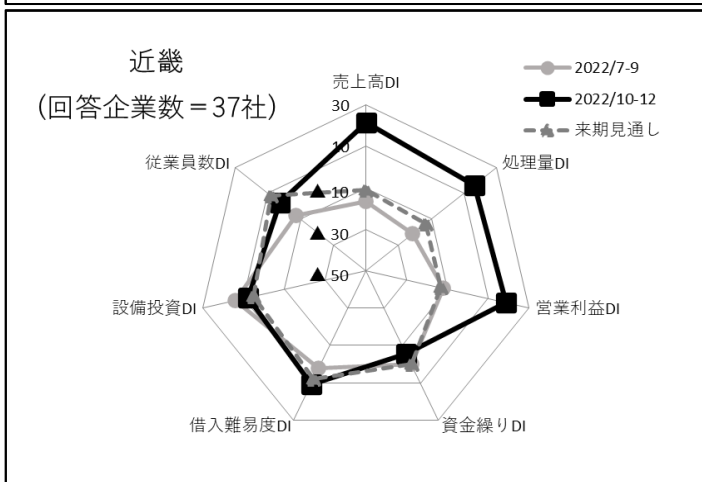
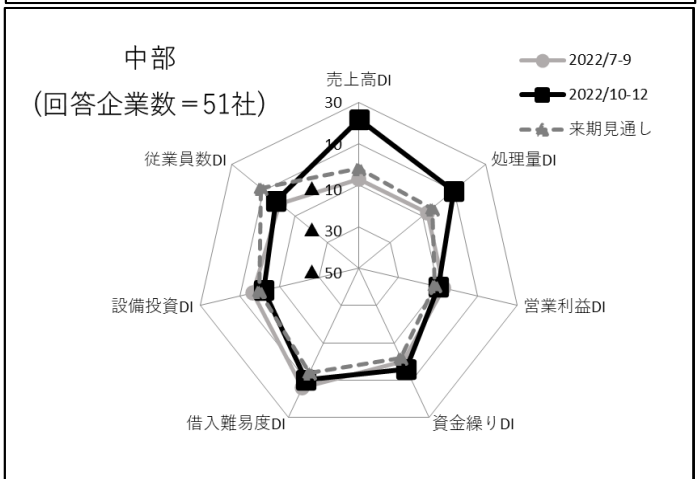
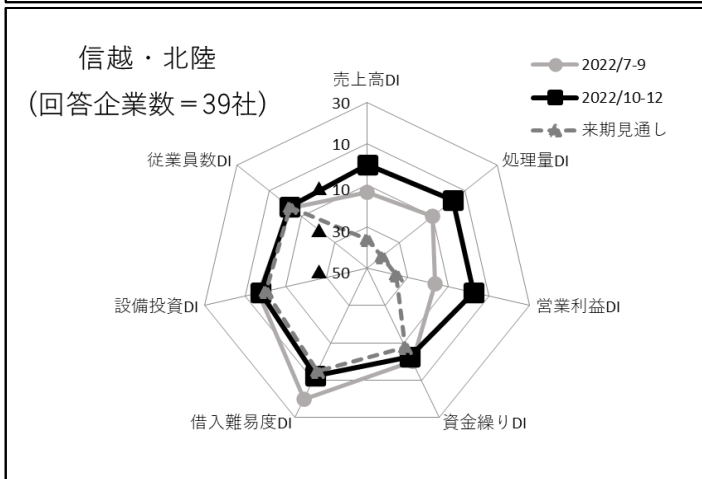
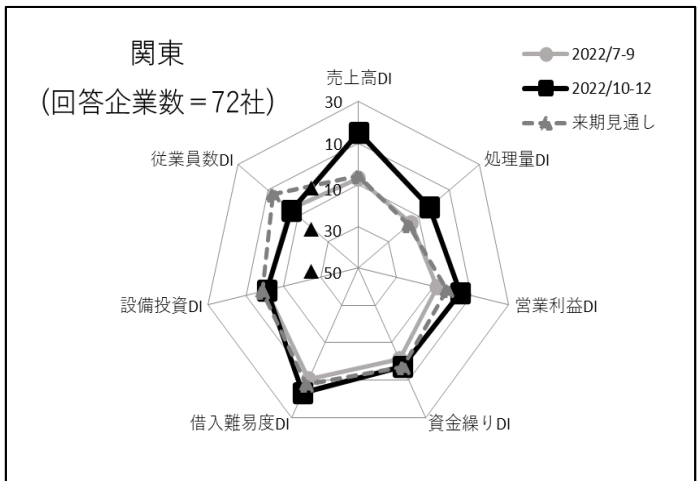
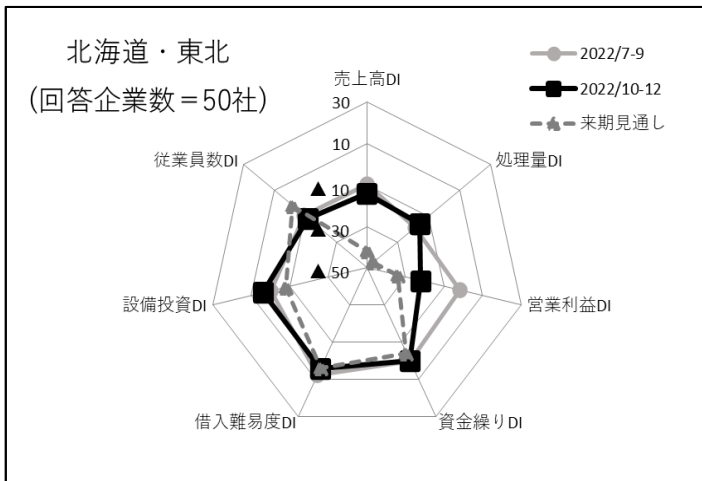
【設備投資DI=1】  
前期に対して  
1ポイント悪化

## 従業員数DI (2021年10-12月期～2022年10-12月期と見通し)



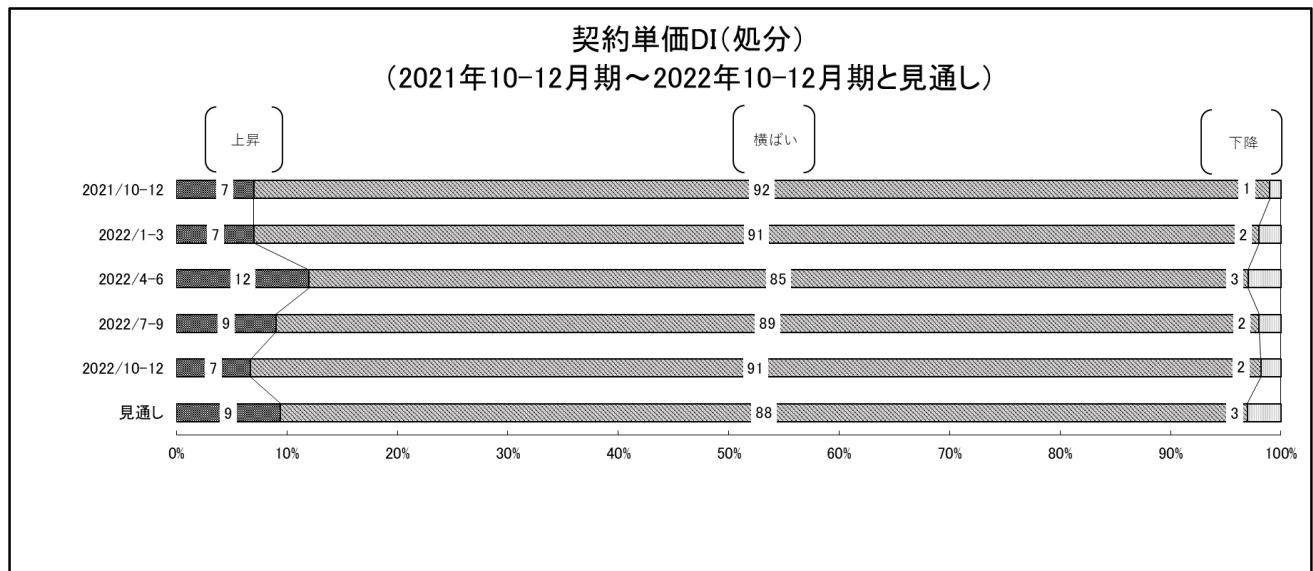
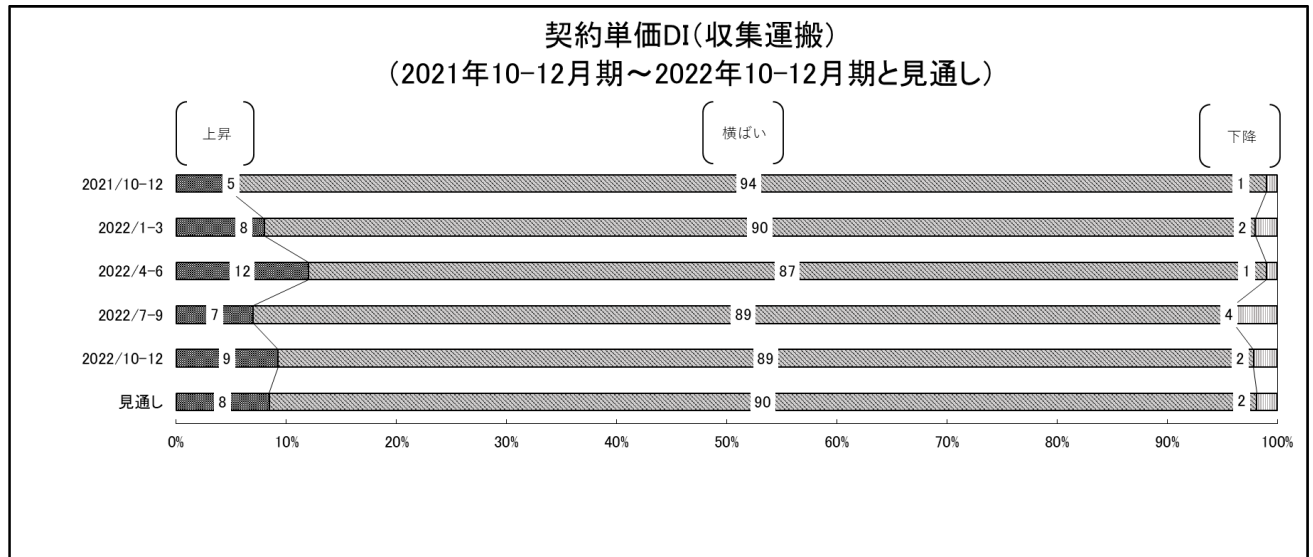


【売上高、処理量、営業利益、資金繰り、借入難易度、設備投資、従業員数 DI の地域別レーダーチャート】



### (3) 契約単価 DI

- 収集運搬の契約単価 DI は 7 となり、前期と比べて 4 ポイント改善した。  
見通しは 6 となり、1 ポイント悪化する見込みとなっている。
- 処分の契約単価 DI は 5 となり、前期と比べて 2 ポイント悪化した。  
見通しは 6 となり、1 ポイント改善する見込みとなっている。



## 2. 売上高の動向

○ 前年同期比(3ヶ月平均)では、0.5%減となった。

有効回答数:158社

単位:千円

前年売上高	2021年10月	2021年11月	2021年12月	平均
	11,549,319	11,827,469	12,433,663	11,936,817
今年売上高	2022年10月	2022年11月	2022年12月	平均
	11,698,792	11,779,640	12,154,365	11,877,599
前年比	1.3%	▲0.4%	▲2.2%	▲0.5%

## 3. 処理量の動向

○ 前年同期比(3ヶ月平均)では、2.9%減となった。

有効回答数:165社

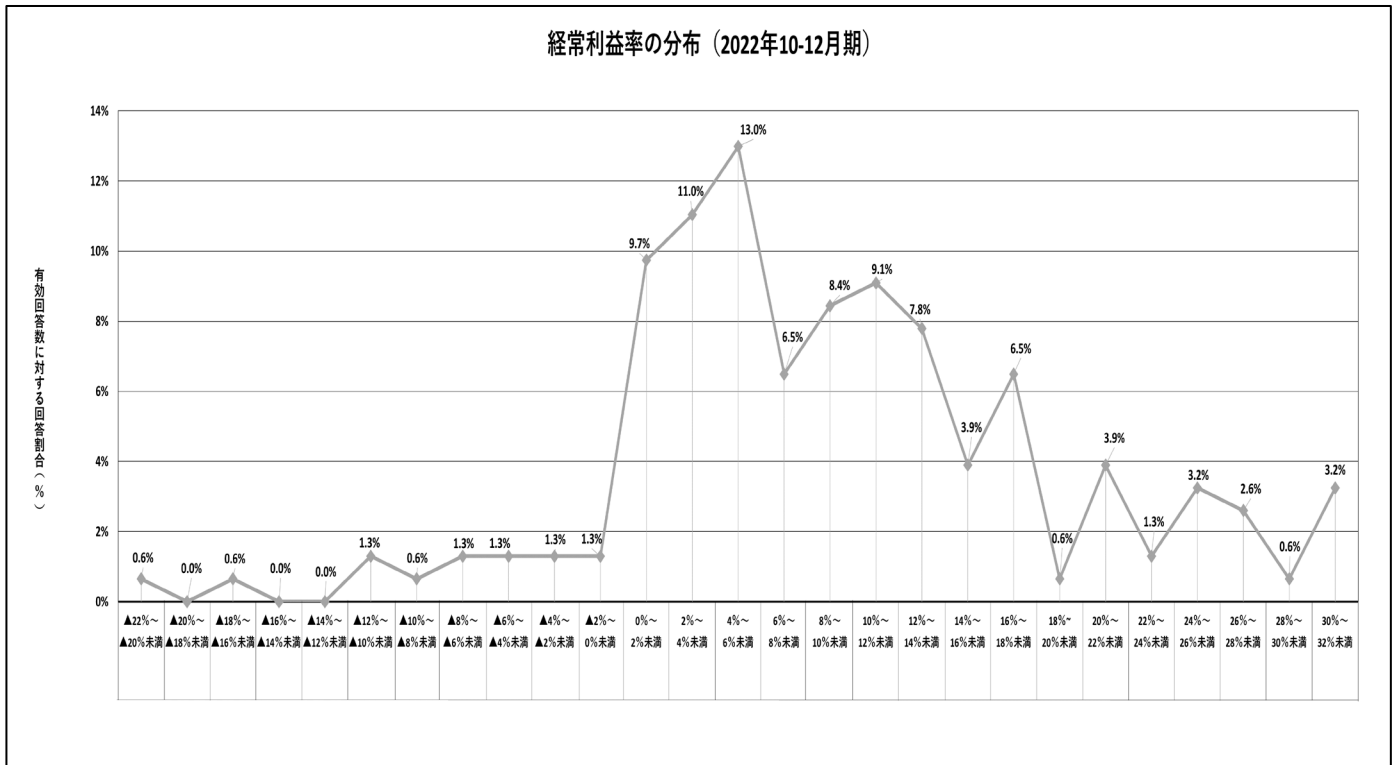
単位:トン

前年処理量	2021年10月	2021年11月	2021年12月	平均
	566,147	580,381	580,865	575,798
今年処理量	2022年10月	2022年11月	2022年12月	平均
	567,528	565,216	544,459	559,068
前年比	0.2%	▲2.6%	▲6.3%	▲2.9%

#### 4. 経常利益率(経常利益の対売上高比率)

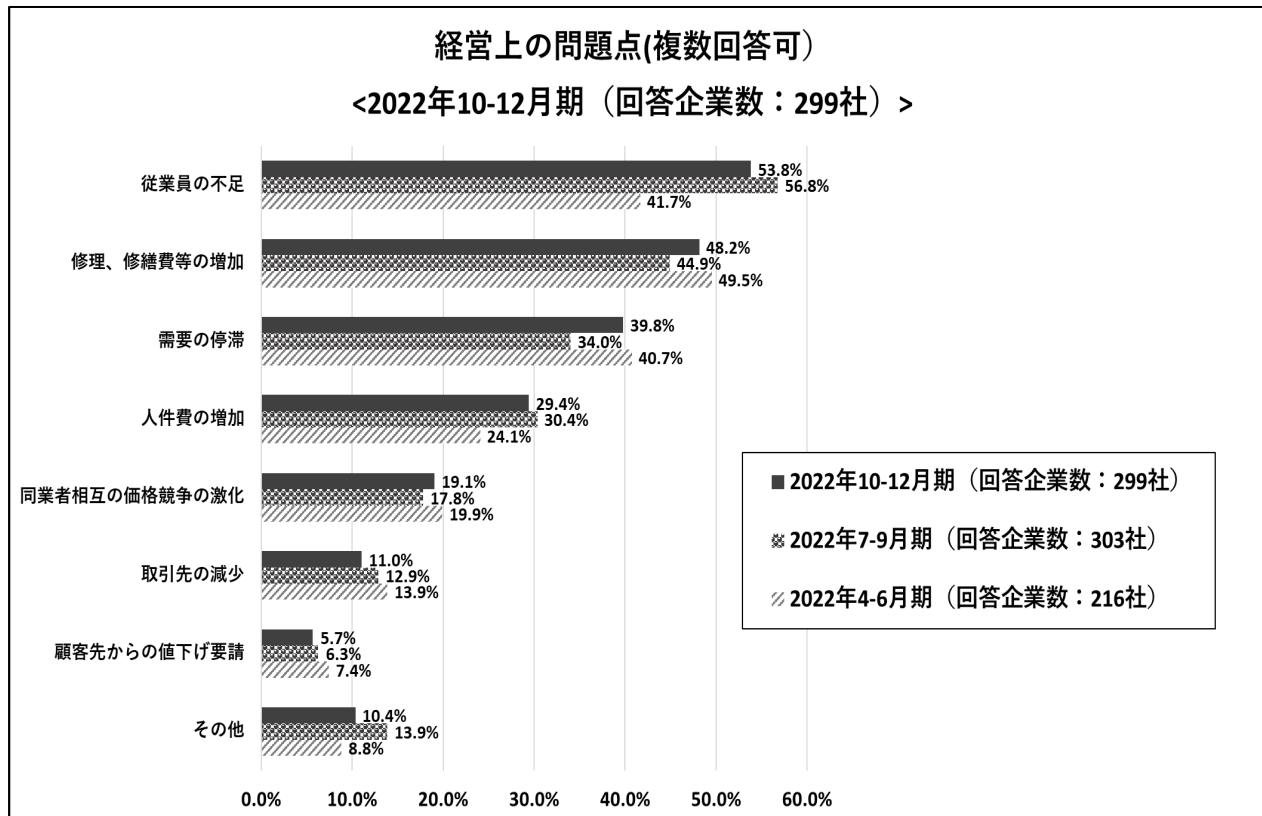
- 経常利益率の平均値は 9.3%で前年同期(7.4%)より改善した。

有効回答数:154 社



## 5. 経営上の問題点(複数回答可)

- 経営上の問題点として、「従業員の不足」、「修理、修繕費等の増加」の回答割合が高かった。
- 「その他」の記述回答では、4期続けて燃料費の高騰を懸念する声が多く寄せられた。



### 【その他記述回答の代表的な意見】

- ・ 燃料費の高騰 (全 22 件)
- ・ 円安や物価上昇の影響
- ・ 最終処分場の受入制限及び処分費の値上げ
- ・ 設備投資に対する資金不足
- ・ インボイスや電子帳簿保存法などへのシステム修繕費用の増加

## 〔調査実施要領〕

本調査は、産業廃棄物処理業の景気動向について把握するため、全国の協会会員企業、全国産業資源循環連合会理事及び部会運営委員会委員を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、集計したものである。

### (1) 調査対象者

全国の協会会員企業、全国産業資源循環連合会理事及び部会運営委員会委員

### (2) 調査期間

2023年1月10日～1月31日

### (3) 調査方法

Webによるアンケート

### (4) 回答数・回答率

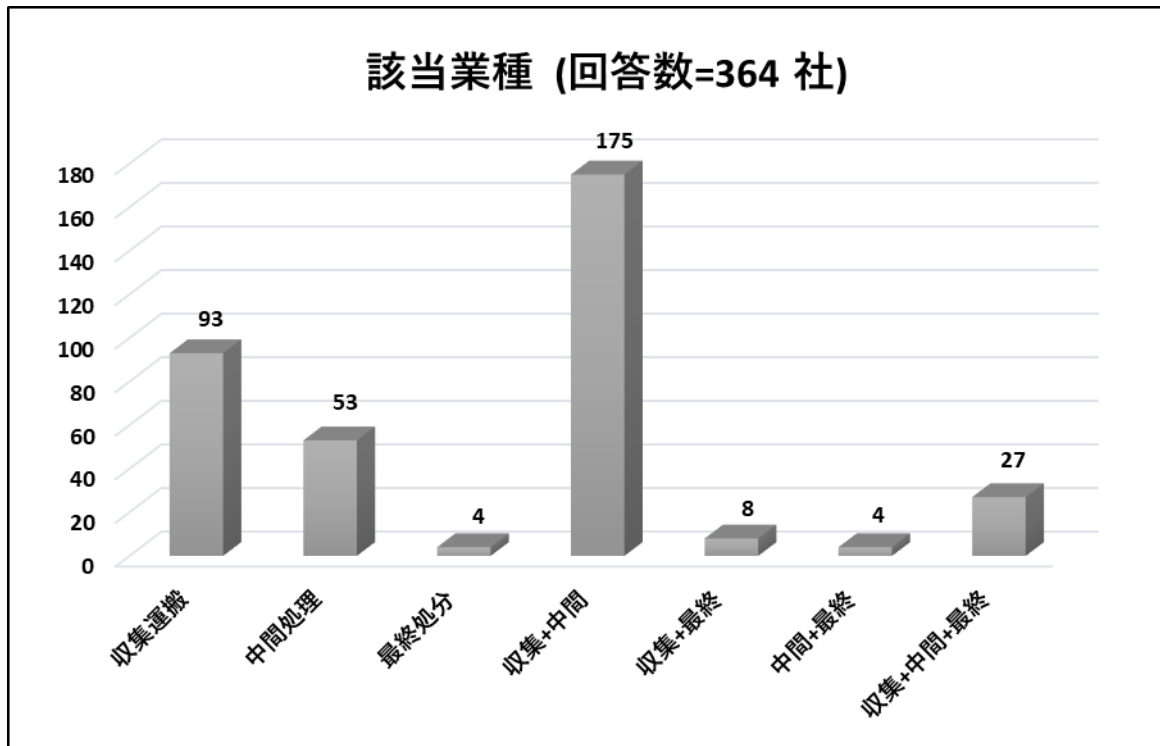
調査依頼企業数	1,251社
回答企業数	364社
回答率	29.0%

### (5) サンプル構成

#### ① 地域別構成

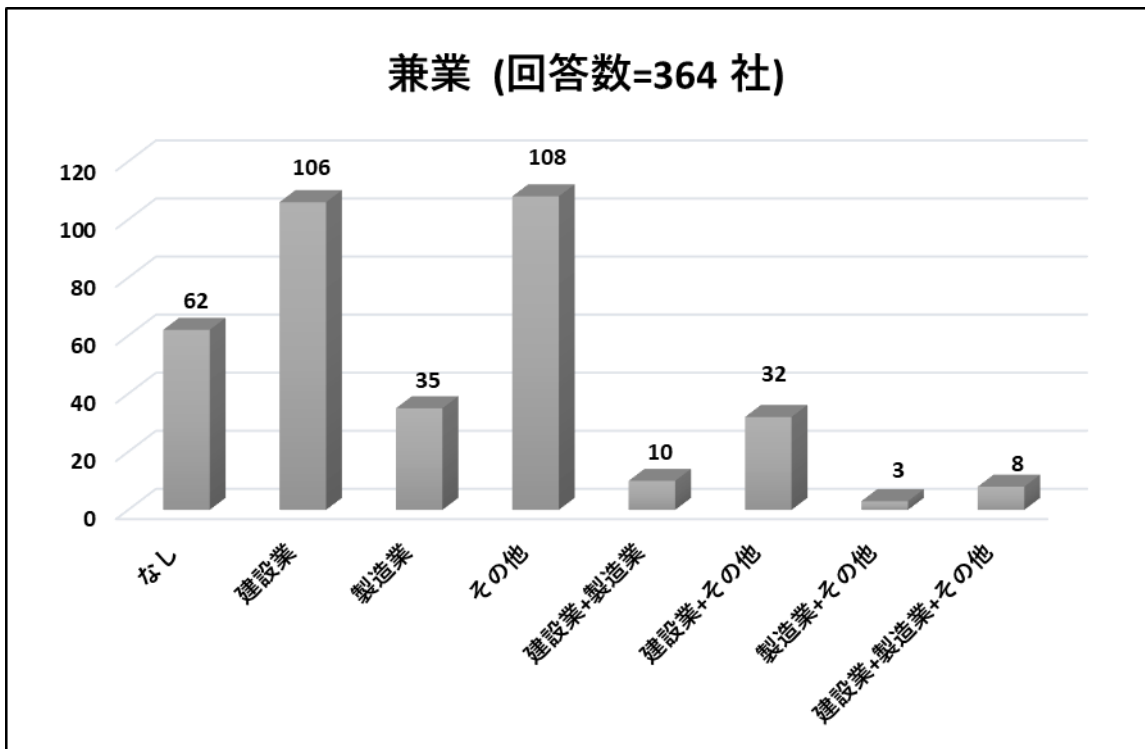
地域	企業数	構成比
北海道・東北	50	13.7%
関東	72	19.8%
信越・北陸	39	10.7%
中部	51	14.0%
近畿	37	10.2%
中国	28	7.7%
四国	39	10.7%
九州・沖縄	48	13.2%
合計	364	100.0%

② 業種別構成



該当業種	企業数	構成比
収集運搬	93	25.5%
中間処理	53	14.6%
最終処分	4	1.1%
収集+中間	175	48.1%
収集+最終	8	2.2%
中間+最終	4	1.1%
収集+中間+最終	27	7.4%
合計	364	100.0%

③ 兼業別構成



兼業	企業数	構成比
なし	62	17.0%
建設業	106	29.1%
製造業	35	9.6%
その他	108	29.7%
建設業+製造業	10	2.7%
建設業+その他	32	8.8%
製造業+その他	3	0.8%
建設業+製造業+その他	8	2.2%
合計	364	100.0%